教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 看護学科　　資格： 教授　　氏名： 清水　佐知子

研究分野	研究内容のキーワード
医療の質・安全に関する研究、看護マネジメントに関する研究	看護業務，患者安全，質管理，安全管理
学位	最終学歴
博士（経済学）	神戸大学大学院国際協力研究科博士後期課程

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.保健師免許	2003年8月21日	第115782号
2.看護師免許	2003年8月21日	第1248016号
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
1.武庫川女子大学看護学部看護学科　教務委員	2023年4月1日～現在	
2.武庫川女子大学　SOAR委員	2022年5月1日～	
3.武庫川女子大学看護学部教務委員会委員	2020年4月1日～2022年3月31日	武庫川女子大学看護学部教務委員会委員として，教育課程や履修，教員の実施，運営について協議した．
4.武庫川女子大学女性活躍総合研究所　研究員	2020年4月～現在	武庫川女子大学女性活躍総合研究所研究員としてダイバーシティ推進部門の業務に携わっている．
5.武庫川女子大学「まちの保健室」プロジェクトメンバー	2020年4月～	武庫川女子大学「まちの保健室」プロジェクトメンバーとして企画調整に携わっている．
6.武庫川女子大学看護学部自己評価担当会議委員	2019年4月～現在	武庫川女子大学看護学部自己評価担当会議委員として自己点検・評価のデータベース作成及びとりまとめ，規約のとりまとめ，委員会活動報告のとりまとめを行った．
7.武庫川女子大学看護学ジャーナル編集委員	2019年4月～現在	武庫川女子大学看護学ジャーナル編集委員として武庫川女子大学看護学ジャーナルの編集と発行を行った．
8.武庫川女子大学看護学部臨地実習委員会委員	2019年4月～2020年3月	武庫川女子大学看護学部臨地実習委員会副委員長として臨地実習の運営及び調整を行った．
9.武庫川女子大学看護学部教務委員会委員	2018年4月～2019年3月	武庫川女子大学看護学部教務委員会委員として，教育課程や履修，教員の実施，運営について協議した．
10.武庫川女子大学　教務委員	2016年4月～2018年3月	武庫川女子大学看護学部教務委員会委員として，教育課程や履修，教員の実施，運営の調整を行った．

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1.災害看護コアコンピテンシー 2.0 版	共	2022年1月	災害看護コアコンピテンシー 2.0 版	国際看護師協会（International Council of Nurses: ICN）の『災害看護コアコンピテンシー2.0版（Core Competencies in Disaster Nursing Version2.0）』についてICNの許可を得て日本語版を作成した．増野園惠，稲垣真梨奈，清水佐知子，堀内美由紀，松尾香織，松葉龍一，山本あい子
2.Nursing business modeling with UML	共	2011年	INTECH, Modern Approaches To Quality Contro, Ahmed Badr Eldin	A nurse is an autonomous, decentralized worker who recognizes goals, his or her environment, the conditions and actions of patients and other staff members, and determines his or her own actions. Put another way, the nurse makes

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
			(Ed.)	decisions flexibly in the midst of uncertainty. Because of this, nursing work differs from individual nurse to nurse, and understanding this process theoretically is considered to be difficult. Concerning nursing work analysis, research has been done on task load (time required for tasks). However, there has been scant academic research on work processes in nursing compared with research that has accumulated in other industrial fields, including research on structuralizing work, i.e., defining and visualizing work processes. To improve work processes, it is necessary to understand and clarify work as a chain of theoretically related activities. Thus in this study, using time and motion study techniques, a method used to measure jobs, we clarify the structure of the work of transporting patients by nurses. We also attempt to visualize it. We use objected-oriented modeling to express the operation visually. Sachiko Shimizu, Rie Tomizawa, Maya Iwasa, Satoko Kasahara, Tamami Suzuki, Fumiko Wako, Ichiroh Kanaya, Kazuo Kawasaki, Atsue Ishii, Kenji Yamada and Yuko Ohno
3.看護介入第2版NICから精選した43の看護介入	共	2004年	医学書院. 550-559.	Bulechek GM, McCloskey JC. (Eds) Nursing Interventions: Effective Nursing Treatments, 3rd ed. Saunders. Philadelphia, 1999.Nursing Intervention:Effective Treatments について，第Ｖ部医療システムへの介入－生活維持支援の章を翻訳した. 早川和生:監訳，清水佐知子：分担翻訳
2 学位論文				
3 学術論文				
1.看護師の自己教育性尺度の開発	共	2023年	日本看護科学会誌 J. Jpn. Acad. Nurs. Sci., Vol. 42, pp. 850-860, 2022 DOI: 10.5630/jans.42.850	[目的]看護師の自己教育性尺度を開発する[方法]概念分析より抽出した看護師の自己教育性の属性より看護師の自己教育性尺度項目を作成し，内容妥当性を検討し尺度原案62項目からなる質問紙を作成した．300床以上の医療施設に勤務する看護師1,080名に質問紙調査を実施し，尺度の信頼性と妥当性を検証した．[結果]416名から回答が得られた．そのうち，259名を因子分析の対象とした．因子分析の結果，《自ら学ぶ力》《省察する力》《看護への興味と仕事の充実感》の3因子27項目が抽出された．尺度の信頼性の検討では，Cronbach’s α係数.945，再テスト法による級内相関係数.858であった．妥当性については，構成概念妥当性と基準関連妥当性で確認された．[結論]看護師の自己教育性尺度を開発し，尺度の信頼性と妥当性が検証された. 共同研究者　野寄亜矢子，清水佐知子
2.看護師の感染予防行動の省略に関連する心理的要因の検討(査読付)	共	2021年3月1日	武庫川女子大学看護学ジャーナル, 6, 35-45	本研究は看護師の感染予防行動の省略の意図に関連した心理的要因を明らかにすることを目的とする。　公立急性期病院1 施設に勤務する看護師371 名を対象とし、仮想事例による無記名自記式質問紙調査を行った。先行研究を参考に、〈時間的圧力〉、〈社会的圧力〉、〈客観的リスク評価〉、〈客観的ベネフィット評価〉の4 要因について、16 の仮想的感染予防行動事例を作成し、各事例に対する〈感染予防行動の省略意図〉、〈感染リスクの認識〉、〈感染予防行動の省略ベネフィットの認識〉を調べた。変数間の相関を確認し、〈感染予防行動の省略意図〉を従属変数、心理的要因及び個人属性を独立変数とする順序ロジット分析を行った。　回収数は241 名（回収率68.7％）で、有効回答が得られた234 名を分析対象とした。分析の結果、感染予防行動の省略には、感染リスクの認識、感染予防行動の省略ベネフィットの認識、時間的圧力、社会的圧力が関連していることが明らかになった。
3.急性期病院に勤務する中堅看護師の自ら学ぶ意欲に関連する要因の検討（査読	共	2020年	武庫川女子大学看護学ジャーナル, 5,33-42.	本研究は急性期病院に勤務する中堅看護師の自ら学ぶ意欲と個人・環境・社会要因との関連を明らかにすることを目的とした。公立急性期病院1施設の経験年数5年以上25年未満の役職者以外の看護師201名を対象に無記名自記式質問紙調査を行った。看護師の自ら学ぶ

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
付）				意欲は野寄，清水（2019）が構築し信頼性、妥当性を確認した22項目から構成される「看護師の自ら学ぶ意欲の測定尺度」を使用した。測定尺度の総得点および下位尺度得点を従属変数、個人・環境・社会要因の各項目を独立変数とし重回帰分析を行った。結果、自ら学ぶ意欲の総得点で環境要因「職場で役割の負担がある」が負の方向で有意であった（p＜0.05）。その他の変数で有意差はなかった。自律的な学習意欲の下位尺度〔認められたい気持ち〕〔充実感と挑戦〕で環境要因「職場で役割の負担がある」が負の方向で有意であった（p＜0.01）。中堅看護師の役割負担が自ら学ぶ意欲に関連すると示唆された。 共著者名：野寄亜矢子，清水佐知子
4.温熱作用に関して手浴が全身浴の代用となる可能性の検証―表面皮膚温の変化および温度感覚・快適感覚から（査読付）	共	2019年	武庫川女子大学看護学ジャーナル，4,13-24.	温熱作用に関して手浴が全身浴の代用が可能かについて、健康な女子大生18 名を対象に比較検証した。方法は、全身浴と手浴を別日に実施し、湯温約40℃の全身浴及び手浴を10 分間行いその後60 分安静とした。左右の手背・前腕・下腿・足背の8 箇所の皮膚温を連続測定し、温度感覚と快適感覚も調べた。全身浴と手浴は、どちらも左右の手背・前腕・下腿の皮膚温を上昇させ実施後60 分までその影響が続き、実施後60 分値に差がなく、基準値より有意に高く同様の温熱作用を及ぼした。温度感覚は、手浴と全身浴とも浸水していた手は実施後に高まり両者で差がなかった。手浴中湯外の部分は、実施後は全身浴より低いが、終了時には全身浴と差がなくなっていた。快適感覚は、手浴も全身浴も実施後の快適感は高まるが、終了時は手浴の方が高かった。以上より、手浴は全身浴の代用として有効であり、手浴の温熱作用は全身浴と比べて快適感が高い可能性が示唆された。 共著者名：山口晴美，阿曽洋子，田丸朋子，片山恵，清水佐知子，岩﨑幸恵，上田記子
5.看護師の自ら学ぶ意欲の評定尺度の作成（査読付）	共	2019年	武庫川女子大学看護学ジャーナル，4，25 – 34.	看護師の自ら学ぶ意欲を測定する尺度を作成し、その信頼性・妥当性を検討することを目的とした。公立急性期病院１施設305名の看護師を対象に櫻井（2009）の構築した大学生用「自ら学ぶ意欲の測定尺度」をもとに看護の独自性を考慮した上で新たな看護師用の項目を作成し、質問紙調査を行った。回答は6件法で求めた。最尤法・プロマックス回転による因子分析の結果、【看護の学習が楽しい】【認められたい気持ち】【充実感と挑戦】【自ら学ぶ行動】の４因子22の項目から構成される看護師の自ら学ぶ意欲の評定尺度を作成した。内的整合性を示すα係数は尺度の総得点で0.947、下位尺度得点で0.843-0.890であった。尺度の妥当性は「資格」「役職」のそれぞれの有無と尺度得点の有意差検定を行った結果、総得点及び下位尺度得点全てで「資格」「役職」ともに有意差が示された（p＜0.05）。以上より、評定尺度の信頼性は一貫して高く、基準関連妥当性も示された。 共著者名：野寄亜矢子、清水佐知子
6.Illness prevalence and healthcare utilization behaviors in rural Senegal : a population-based study（査読付）	共	2014年	Japanese Journal of Health and Human Ecology, 80(6), 261-274.	The aim of this study is to elucidate the prevalence of illnesses and healthcare utilization processes among the general population, including infants, in rural Senegal. We selected 29 households from a farming village (V1) and 21 households from a fishing village (V2) by systematic random sampling. Using a survey questionnaire, face-to-face interviews were conducted to assess illnesses experienced during the past 3 months and type of treatment chosen. Healthcare utilization processes were visually summarized in tree diagrams. The study highlights a gradual transition in the healthcare utilization processes among residents from primary to specialized medical care. 共著者：Maya Iwasa, Sachiko Shimizu, Yuko Ohno
7.Cost-effectiveness analysis of a pertussis vaccination	共	2013年	Vaccine. 31(27), 2891-2897.	The aim of this study is to assess the cost-effectiveness of alternative vaccination programmes for replacing the conventional diphtheria-tetanus (DT) vaccine programme administered in adolescence, considering the risk of

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
programme for Japan considering intergenerational infection（査読付）				intergenerational infection.We examined the cost-effectiveness of 4 pertussis vaccination programmes: (1) one-time adolescent DT vaccination (DT); (2) one-time adolescent DT-acellular pertussis (DTaP) vaccination; (3) one-time adolescent DTaP with decennial booster (DTaP+booster); and (4) one-time adolescent DTaP with additional vaccination targeted at parents with infants (additional DTaP for parents). We adapted a state-transition Markov model to estimate the costs and effectiveness of vaccination in the adolescent and adult cohorts and then considered intergenerational infection from adolescents/adults to infants. 共著者：Tomoya Itatani, Sachiko Shimizu, Maya Iwasa, Yasushi Ohkusa, Kazuo Hayakawa
8.Psychometric properties and population-based score distributions of the Japanese Sleep Questionnaire for Preschoolers（査読付）	共	2013年	Sleep Medicine 15(4)	We aimed to present psychometric properties and describe the score distributions of the Japanese Sleep Questionnaire for Preschoolers (JSQ-P), a guardian-reported survey questionnaire for assessing sleep disturbances and problematic sleep habits among preschool children. Guardians of 2998 toddlers in three communities and guardians of 102 patients diagnosed with sleep disorders in two clinics completed the JSQ-P. Exploratory factor analysis (EFA) revealed the 10 domains of the JSQ-P to be similar to our previous small-scale study and confirmed the robustness of the JSQ-P. The JSQ-P showed acceptable internal consistency; α coefficients ranged from 0.622 (insufficient sleep) to 0.912 (restless legs syndrome [RLS], motor) for the community sample and 0.696 (insufficient sleep) to 0.959 (RLS, motor) for the clinical sample. The score differentiations between the community and clinical samples associated with RLS, obstructive sleep apnea syndrome (OSAS), morning symptoms, parasomnias, excessive daytime sleepiness, and daytime behaviors were demonstrated in our study. The distributions of percentile T scores for each subscale and age and gender differentiation of scores also were evaluated. We confirmed that the JSQ-P is a valid and reliable instrument to evaluate Japanese sleep habits using a large population-based sample. The JSQ-P may be useful in both clinical and academic settings. 共著者：Sachiko Shimizu, Kumi Kato-Nishimura, Ikuko Mohri, Kuriko Kagitani-Shimono, Yuko Ohno, Masako Taniike
9.日本の幼児の睡眠習慣と睡眠に影響を及ぼす要因について（査読付）	共	2012年	小児保健研究，71(6)，808-816	近年子どもの睡眠は発達において非常に重要であることが報告されている。今回、われわれは新たに開発した「子どもの眠りの質問票」の背景データを用い、3～6歳の就学前児2,875人の睡眠習慣を調べた。その結果、子どもの平均就寝時刻は21時17分であり、22時以降に就寝する子どもは全体の39.8%であった。幼児の平均睡眠時間は9.7時間であり、海外のデータに比し短かった。保護者の遅寝や2時間以上のテレビ視聴、20時以降の外出も幼児の就寝時刻に影響を及ぼし、さらに、遅寝は睡眠時間を短くする傾向があった。幼児の睡眠時間に対する保護者の意識の調査では、9時間未満の短時間睡眠の子どもの保護者の55.0%が子どもの睡眠を「良いと思う」と回答していた。今後、養育者を含めた日本の成人に対して、子どもの睡眠衛生に対する啓発活動が必要である。 共著者名：三星喬史，加藤久美，清水佐知子，松本小百合，鴈野雪保，井上悦子，毛利育子，下野九理子，大野ゆう子，谷池雅子
その他				
1．学会ゲストスピーカー				
2．学会発表				

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
1.大学病院で巻き込み力を発揮して活動する専門看護師・認定看護師の特性	共	2022年12月4日	第42回日本看護科学学会学術集会	大学病院で巻き込み力を発揮して活動するCNS・CNがどのような特性を持っているのかを明らかにすることを目的とした．A大学医学部附属病院で「巻き込み力」を発揮して活動ができているCNS・CNを対象に、半構造化面接を行った。同意を得て録音した面接内容から逐語録を作成した。巻き込み力を発揮するCNS・CNの特性として249コード、58サブカテゴリー、23カテゴリーが明らかにされ、さらに5コアカテゴリー【自己イメージ】、【思考】、【内省】、【相手への関心】、【巻き込む技術】に分類された。 田中寿枝，片山恵，清水佐知子
2.看護師の自己教育性測定尺度の開発	共	2022年12月3日	第42回日本看護科学学会学術集会	
3.Competencies Required of Clinical Nurses for Dealing With COVID-19: From the Perspective of Disaster Nursing	共	2022年10月18日	The 7th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science	We aimed to verify whether disaster nursing competencies of clinical nurses can be utilized to respond to infectious disease pandemics.
4.災害初動における臨床看護師に求められるコンピテンシー評価項目の検討	共	2021年3月20日	日本看護研究学会第34回近畿・北陸地方会学術集会抄録集，p.30.	災害初動における臨床看護師に求められるコンピテンシーを明確にすることを目的とし，21世紀COEプログラムによる災害看護コアコンピテンシー（兵庫県立大学）87項目から「臨床看護師」「災害初動」に関連する50項目を抽出し，4件法を用いてWEBアンケートを作成した。107名より回答を得た．項目内容，項目数を検討し，解釈可能性を考慮したうえで，最終的に累積寄与率61.971を示す6因子27項目を災害初動における臨床看護師に求められるコンピテンシー 評価項目の構成因子として採用した．第1因子から第6因子まで抽出されそれぞれ，【ケア提供者の健康保持と勤務施設における災害時体制下での自己の役割の認識と適切な行動】，【研鑽する基本能力】，【初動期のケア体制整備に関する実践能力】，【初動期における災害看護の基本的姿勢】，【初動期のアセスメント能力と展開能力】【被災者の意思決定を支える力】と命名した．本研究における27項目全体のCronbach’s α係数は.952，各因子ではα = .837～.904であり内的整合性が保たれていた．
３．総説				
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
６．研究費の取得状況				
1.臨床看護師のための災害看護臨床看護師のための災害看護コンピテンシー獲得を目的とした学修支援ツールの開発コンピテンシー獲得を目的とした学修支援ツールの開発	共	2020年～2022	基盤研究(C)，分担研究者	研究代表者：堀内美由紀氏（奈良学園大学） 臨床看護師が効果・効率的に災害看護を学ぶための，学習コンテンツと到達目標の設定を含む学習方略を示すことを目的とし，国際看護師協会ICNとWHOが2006年に発表した『ICN Framework of Disaster Nursing Competencies』とそのVer.2へ，近年の実践された災害看護を分類し，災害の種類，場所と場面，役職または役割別の災害看護コンピテンシーを明らかにすると共に日常看護と紐づくコンピテンシーも同定する。それらを合わせた学習コンテンツ，eポートフォリオ，および評価指標（ルーブリック）を開発，検証する． 共同研究者：堀内美由紀，松葉龍一，清水佐知子，宮崎誠
2.急性期病院に勤務する看護師の自律的学習意欲の構造化と尺度開発	共	2020年～2022	科学研究費補助金（基盤研究C），分担研究者	研究代表者：野寄亜矢子氏（神戸市看護大学） 看護師は継続学習による能力の維持・開発に努める必要がある。しかし近年、業務の過密 化や単調化による刺激の低下、他者からの評価の機会の減少により急性期病院に勤務する看護師の自律的な学習意欲が低下しているとの指摘がある。しかし、実際に学習意欲が低下しているかどうかは実証されていない。これまでにも自律的な学習意欲を測定する既存の尺度はいくつか存在するが、対象とする集団の違いや尺度の統計的信頼性・妥当性の低さなどからそのまま看

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
６．研究費の取得状況				
				護師に適応することが難しい。以上より、本研究はまず急性期病院に勤務する看護師の自律的学習意欲の構造を明らかにする. 共同研究者：野寄亜矢子，清水佐知子
3.看護師間コミュニケーションの定量化と可視化に基づく離職防止対策と教育的課題	共	2019年～2021	科学研究費補助金（基盤研究C）．分担研究者	研究代表者：久米弥寿子氏（武庫川女子大学） 本研究では、日立ハイテック社製のビジネス顕微鏡を使用し、看護師間や看護学生の集団内コミュニケーションの量的把握を行う。会話内容は測定せずにコミュニケーションの量や構造を可視化し、(a)対面時間、(b)密度、(c)集中度、(d)相互性により実態を明らかにする。さらに対面時間とチームワーク測定尺度や職務満足度尺度の下位尺度との順位偏相関係数を算出し、その関連性を分析する。 研究代表者：久米弥寿子氏（武庫川女子大学） コミュニケーション構造については、測定期間内の組織ネットワーク図を表示し、ネットワークの密度や位置関係からその特徴を考察する。それらに基づき、就業につながる教育的支援と早期離職防止のための具体的対策や提案を目指す。 共同研究者：久米弥寿子，田丸朋子，山口晴美，清水佐知子
4.看護業務における段取りの構造化と自己評価ツールの開発	単	2017年～2019	科学研究費補助金（若手研究B），研究代表者	単独研究として看護業務における段取りの構造化を行った.
5.大学生の“素朴な”心のケアの実践者になるためのプログラム開発とその評価：キャンプの実践を通じて	共	2013年	JR西日本あんしん社会財団	主任研究者，良原誠崇（畿央大学）．東日本大震災で重大な心理的局面に迫られながらそれ自体が否認された人々を対象にした心のケアを実践するプログラムの開発を行った。プログラムは専門家からみれば“素人”だが，しかし専門家以上に災害によってネグレクトされた当事者への接近を可能とし，それによって身体的で相互反転的な関係を構築することで豊かな意味をもたらすことができる学生を“演者”とし，その瑞々しさを失わず，間主観的で同時に安全な“舞台”の生成を試みた。プログラムの場はキャンプをベースとし，栃木県及び奈良県にてキャンプを行った。加えて，全12講のワークショップ研修を行い，大学生の被災者の健康，心理状況やキャンプの安全についての理解が深まるよう支援した。 共同研究者：良原誠崇，堀内美由紀，清水佐知子，永渕泰一郎，井村修，瓜谷大輔
6.看護師業務の構造化と業務プロセス改善手法の基礎的検討	単	2011年～2013	科学研究費補助金（若手（B)），研究代表者	単独研究として，タイムスタディによる業務記録に基づき看護業務の構造化を行い，業務段取りの分析を行った.
7.高齢社会の医療提供体制における必要医師数の推計に関する研究	共	2009年～2011	厚生労働科学研究費補助金，分担研究者	主任研究者，大島伸一（長寿医療センター）．医師のライフコースを考慮した医師数推計を行った. 共同研究者：大島伸一，長谷川敏彦，長谷川友紀，小塩篤史，清水佐知子
8.社会医療サプライチェーン駆動力としての大学病院運営評価:業務実態調査を基盤として	共	2009年～2011	科学研究費補助金（基盤（Ｂ）），分担研究者	主任研究者，大野ゆう子氏（大阪大学）．自然災害下でも地域社会医療サプライチェーンを駆動できる大学病院機能について(1)無人タイムスタディによる医療従事者の稼働能力の計測とタイムプロセススタディによる稼働状況分析，(2)大学病院と連携する地域での医療需要掌握における地域がん登録など疾病登録情報の利用と大学病院の医療供給力の計測，(3)大学病院退院後の患者への医療継続を担う居宅サービスを包含した在宅療養システムに関する無人タイムスタディによる定量的検討，などの研究を行った。 共同研究者：大野ゆう子，清水佐知子
9.女性の健康関連行動におけるリスク選好及び社会的相互作用効果に関する医療経済学的研究	単	2009年	財団法人医療科学研究所研究助成金	単独研究として，女性の喫煙・飲酒行動における社会的相互作用効果及び個人のリスク選好の影響について実証分析を行った．大学生を対象としたアンケート調査及び高校生を対象としたインターネット調査を行い，女性の喫煙・飲酒行動における相互作用効果の存在とその影響度を推定した。
10.タイムスタディ等の定量的な検討を踏まえたがん医療における専門スタッフの効果的な配置や支援のあり方に関する研究	共	2008年～2010	厚生労働科学研究費補助金,分担研究者	主任研究者，大野ゆう子氏（大阪大学）．患者相談業務，院内がん登録，地域連携等がん拠点病院に期待される機能について，がん診療連携拠点病院，がん専門病院，特定部位専門病院，総合病院，患者支援・地域連携支援団体など40以上の施設・部門・組織を見学，インタビュー，観察調査を実施し，各機能の担当部署，病院内の配置，業務内容，担当職員人数，専門性等の検討を行った。さらにタ

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
６．研究費の取得状況				
11.手術成績予測法を用いた外科治療質改善システムの開発	共	2006年～2008	厚生労働科学研究費補助金,分担研究者	イムスタディ等定量的調査を行い，看護必要度推計を行った 共同研究者：大野ゆう子，清水佐知子 主任研究者，二村雄次氏（愛知県立がんセンター）．国立大学11施設を対象とした多施設共同研究による外科治療成績のアウトカム比較を行った．消化器外科，泌尿器科，脳神経外科の各領域で症例を収集し，手術成績予測モデルを開発した． 共同研究者：二村雄次，長谷川敏彦，長谷川友紀，里見進，西岡清，朔元則，武澤純，石川雅彦，平尾智広，吉峰俊樹，櫻井芳明，小田高司，清水佐知子
12.臨床指標を用いた医療の質向上に関する国際共同研究	共	2005年～2007	厚生労働科学研究費補助金．分担研究者	主任研究者，長谷川敏彦氏（日本医科大学） 医療の成果を構成する三側面，「質，安全，満足」のそれぞれについて測定インスツルメントを開発し，測定した。満足度調査は外部顧客「患者」，内部顧客「職員」，そして紹介元について顧客満足理論に基づき調査を行った。臨床指標は全112項目の指標を「病院特性」，「診療成果」，「生産効率」の3つに分類し，ベンチマークを行った。安全についてはAHRQによる患者安全文化尺度を翻訳し，質問紙調査を行い，その妥当性と信頼性を明らかにした。生産性について自治体病院の中の急性期病院を対象に，確率的生産フロンティア分析手法により，開発，試行した。 共同研究者：長谷川敏彦，長谷川友紀，井口昭久，平尾智広，清水佐知子
13.臨床看護師の看護業務「段取り」力を高める学習プログラムの開発			文部科学省科学研究費補助金　基盤研究（C），研究代表者	

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2023年1月5日	生涯学習鳴尾大学講師「感染予防について」
2.2022年1月6日	生涯学習鳴尾大学講師「感染予防について」
3.2021年10月1日～2023年9月30日	日本看護科学学会和文誌専任査読委員
4.2020年9月25日	認定看護管理者教育課程セカンドレベル講師　（兵庫県看護協会）
5.2020年1月16日	生涯学習鳴尾大学講師「温める？冷やす？水の力と看護の力」
6.2019年9月27日	認定看護管理者教育課程セカンドレベル講師　（兵庫県看護協会）
7.2019年7月～2020年6月	兵庫県看護協会阪神南支部教育委員
8.2019年1月17日	生涯学習鳴尾大学講師「温める？冷やす？水の力と看護の力」
9.2018年12月8日	防災シンポジウムー考えておかなければいけないことー　パネリスト
10.2018年9月26日	認定看護管理者教育課程セカンドレベル講師　（兵庫県看護協会）
11.2018年7月～2020年6月	兵庫県看護協会看護実践研究会企画委員
12.2017年9月12日	武庫川女子大学スタートアップ支援講座「統計学セミナー」講師
13.2017年8月17日	認定看護管理者教育課程セカンドレベル講師　（兵庫県看護協会）
14.2017年8月11日	女子中高生の理系進路選択支援プログラム　ひょうご理系女子未来塾「未来カフェ～社会人からのメッセージ～」座談会
15.2017年6月11日	第19回日本母性看護学会学術集会協力委員
16.2017年4月1日～2018年3月26日	日本看護研究学会第31回近畿・北陸地方会学術集会企画委員（事務局長）
17.2017年1月10日～2017年9月30日	第48回日本看護学会慢性期看護学術集会抄録選考委員
18.2011年6月	第5回ITヘルスケア学会学術大会プログラム委員長
19.2011年1月10日～2011年9月30日	第42回日本看護学会成人看護Ⅰ・Ⅱ(合同）学術集会抄録選考委員
20.2009年11月～2013年3月	ITヘルスケア学会学会誌編集委員会委員
21.2009年9月	認定看護管理者教育課程サードレベル講師(広島県看護協会)
22.2009年6月	大阪電気通信大学運動指導者のためのスキルアップ講座講師
23.2008年4月～2010年3月	大和高田市立病院看護研究講師
24.2006年4月1日～2006年12月31日	第26回日本看護科学学会実行委員